

日本基督教団 東中国教区ニュース NEWS

東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒710-0008
倉敷市鶴形一五十五
倉敷キリスト会館内
TEL 086-422-1780

説教

「神の恵みが現れた」

倉吉上井教会 牧師 奥田 望

テトスへの手紙 二章一二節

「実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました。」クリスマスにそれほど多くの耳にする言葉ではありませんが、『讚美歌二一』の招詞で「降誕節・クリスマス」のところで採用されているように、おそらく私たちが喜び祝うクリスマスの意味がそこには示されているということなのでしょう。

この箇所を読んでもみると、様々な生活の場面における実際的な戒め全体の根拠とされる出来事が「実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました」ということだと言われるのです。そこで教えられ

る実際的な事柄が時代的な限界をはらむものであることは当然留意されなければなりません。同時にそれは当時の現実的な生活感覚、日常がそこにはあるということ。そしてそれらを根拠づけるのは「実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました」とされる出来事であるという教えは、現代を生きる私たちにとっても非常に重要なことではないでしょうか。そして同時にそれを根拠に生きる私たち自身が、聖書に示されるような限界、時代の制約の内にあることを受け止められているのだろうか考えさせられてしまいます。

私自身のことを振り返ってみる時に（苦しみますなどという使い古されたことは言いたくありませんが）、電飾を抱えて教会のヒマラヤスギにのぼり（その頃はまだのぼっても木にかける負担は今みたいに重くなかった）、葉のチクチクを耐えながら、何もこんなに寒くて暗くてあわただしい時期にクリスマスを祝わなくてもなどと木の

説教	1
宣教会議報告	2
教団総会報告	3
岡山県北部地区信徒研修会	4
世界宣教のはたらき	5
教区カルト問題相談窓口を開設しました	6
教会紹介	7
こんにちはのお部屋・編集後記	8

上で思っていたことなど、クリスマスのたびに、街中ほど楽しげでない自分自身に不安だったことばかりが思い出されます。

クリスマスの喜びというのは、きっとお気楽に面白おかしくということとも違うのだらうと今は自分を励ませるようになりました。それが「実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました」という出来事を根拠とする毎日を生きる者とされる、そんな自分に気づかされることこそがクリスマス喜びなのではないでしょうか。それは面白おかしくでは済まされないかも知れません。

どうぞ喜びと平安の内にクリスマスと新年とをお迎えください。



「宣教会議報告」

東中国教区 副議長 中井大介

去る二〇二二年九月五日(月)、Web会議にて開催されました。この度の宣教会議は、1)二〇二二年度予算についての懇談、2)将来的東中国教区宣教に関する件をとりあつかいました。予算についての懇談ではひろい話題が忌憚なく共有され、コロナ禍における各教会の苦心を分かち合うときとなりました。そうしたなか、コロナ禍では図らずしてオンライン会議システムが普及し、会議に掛かるコストが削減されるという好機を得ました。これまでの会議制において一つの場所に集うことは物理的に負担でしたが、オンライン会議システムの特性上、場所にしばられないで協議できるといふ点で、参加者の負担が劇的にさがりました。この技術を活用して、今後は礼拝や教会形成につなげていけるのではないだろうか、たとえば説教者が会場及

びオンラインでメッセージを語り、会場及び配信を受信する複数教会において同時に聴き、祈りを合わせるという形式の礼拝、つまり「一発信・複数同時礼拝」という考え方もできるのではないだろうか。実際には二〇二二年度なかばより、兼務代務教師による牧会上の要請で「一発信・複数同時礼拝」は実施される可能性が高い状況にあります。こうした新しくも喫緊の課題に対して速やかに教区がサポートしていくことが求められているのではないだろうかという協議に一同首肯しきりでした。

将来的東中国教区宣教に関する件については、二〇二二年八月三十日(火)に開催された常置委員会でファシリテーターを担当した柴田彰常置委員から総評が語られ、このたびの宣教会議に参加された方々にも「将来の教区がどのようなになったらいいか」といふ希望を語り合う時間となりました。教区の将来を検討するときには、在任期間の長い教師を増やして十年二十年プレーヤーの教師が増えることによって、各

人が教区を「自分ごと」として関わっていける実践を増やしたいとか、どうしても教区ではお金のことが協議の中心となるけれども、金銭が教区のエネルギーの原点ではなく、私たちにとつての本当のエネルギーの原点を見つめていきたいとする考えであったり、教区の活動が会議や集会に寄りすぎている点から距離を取り、たとえば趣味や関心をもとにしたつながりが構築されてもよいのではないだろうか、オンラインゲームなどで日常的なつながりを育てていくなどの大胆な試みもしてみたい、という意欲的な意見も登場しました。私自身としては、このたびの発言者のお一人が、訥々と素朴に「神を第一として、みんなと一緒に在りたい。なかよく過ごしたい」と語られた言葉があり、この言葉を有する人が一人でも与えられたことこそ教区の良心が生きていることの証であったように思えました。

「教団総会報告」

「罪人の集い」

倉敷教会 金子直子

「私たちの教会の一つの問題は、教会の中に主がいらっしゃらなくなっていることかもしれません」開会礼拝で一節です。「教会には主を必要とする人が少数になっているからかもしれない」からだ。多々思い当たります。正義の追求も大切だが、主の憐みが分からなければ教会ではない・その通りだと胸に染みた説教でした。はたして日本基督教団はどこに向かう群れなのでしょう。

四年ぶりの総会は「試練の中で日本伝道の推進」を掲げ、新三役選出と全数連記投票への反対もある中での常議員選も行われました。また機構改定への疑義を呈した二教区からの議案はいずれも少数否決され、課題はこうして手つかずのまま持ち帰りとなります。

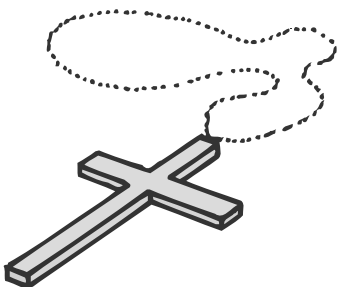
その理由の一つが、議事進行の時間配分の不公平さにあると思えてなりません。必然的に反論の声は張り上げても届かず、いつしか怒声となり、そして虚しさへと変えられます。会場はまるで、交わることもない大小の潮流が、ぶつかりながらも流れる大河のようでした。

「ようこそ罪人の集いへ」と招かれた一感想です。

玉島教会 牧師 三浦きょうこ

二〇二二年九月二七日〜二九日、第四十二回教団総会がホテルメトロポリタン池袋を会場に、コロナ感染対策の上、四年ぶりで開催された。深く印象に残ったのは、開会・閉会の礼拝メッセージであった。平野克己牧師が「罪人の集い・あわれみの主」と題して語られたのは、詩編一三三編一節から、「総会に集い、『共に座っている』者たちは、主イエスが招き、遣わされる兄

弟姉妹。総会が終わるとき『なんといいう恵み、なんといい喜び』と語って遣わされたい。」という願いだった。戸田奈都子牧師からの閉会礼拝メッセージは、「救いの出来事の後」と題して、放蕩息子の話しに出てくる二人の兄弟を、自らと重ね合う、わたしたちが歩む「その後」の物語だ。お二人のメッセージには共に、神が、罪人であるわたしたちを憐れみ、その寛容さのうちに温かく包み込むぬくもりが溢れている。教団に属する者として、ひとつひとつの布片が生み出すパッチワークの色合わせの楽しさのように、多様性に富んだひとつの合同教会としての、豊かな色合いを切に祈り求めている。



岡山県北部地区信徒研修会

「心の病への理解

〜私たちにできること〜」

二〇二二年九月一七日(土)

十三時三十分〜十五時三十分 久世教会

精神保健福祉士 本田政憲先生

久世教会 牧師 宮本裕子

題「私たちにできること」

*三年ぶりに懐かしい顔に会えました。

二〇二二年九月一七日(土)、久世教会を会場として、北部地区信徒研修会が開催されました。参加者は三十名。コロナ禍のために多くの行事が行えなくなっておりましたから、久しぶりに懐かしい顔に会えたことも、うれしいことでした。

テーマは「心の病への理解〜私たちにできること〜」
依存症は、



本田政憲先生：講演

依存しているもの、たとえばアルコールとか薬物などを大事にすることで、自分の家族や生活に不都合が生じることです。誰もが不安や緊張があると何かに頼っています。でもそれらが、無くてはならないものとなり、依存症になるわけです。

* 私たちにできることは何でしょうか？

生きづらさを抱えている方々へ、私たちに何ができるでしょうか。一時間の講演会の後、分団に分かれて、話し合いが持たれ、活発に意見がだされました。

「人の話をよく聞いてあげること、人の気持ちに寄り添うこと。何よりも自分に相談してもらえらるること」が、重要なことです。

でも、限界があるということも知って、それ以上のことは「神様におゆだねする祈り」が大切だ、などの意見がだされ、大変有意義なひと時となりました。

* 「変わってはいけない」

本田先生は一つの詩を紹介されました。

「かわってはいけない」

アントニー・デ・メロ著

「私は何年間もノイローゼでした。私は自分のことしか考えませんでした。皆がわたしに変わるようにと言いつづけました。私は変わりたいと願いました。でも変わる事ができませんでした。」

ある時、声が聞こえました。『変わって

はいけない。君のままでもいいなさい。君が変わろうと変わるまいと、どうでもいいことだ。私はありのままの君が好きだ。』

これらの言葉は、わたしの耳に音楽のように響きました。

私は安心しました。そして、私は生き返りました。

そして、ああ、なんとという不思議！私には変わったのでした。」

* 「我をこのままに救い給え」

この詩は、まさに私たちの主なる神様が、ありのままの私たちを愛してくださいとさっしていることを表しています。ありのままを愛する愛で愛された者は、もはやそのままではいられなくなり、変わらざる得なくなります。そのままを愛された者は、み旨のままに変えられる、この不思議な平安のことなのです。

最後に、賛美歌五一一番「トイエス君よ、このままに、我をこのままに救い給え」を賛美し、恵まれたひと時を過ごしました。



本田政憲先生：講演会、分科会

「世界宣教のはたらき」

ブリュッセル日本語プロテスタント教会

牧師 伊勢 希

ご無沙汰しております。五年間、岡山教会にて伝道師、副牧師として歩ませて頂きました。その間、東中国教区の皆さまには豊かな交わりをいただきておりましたこと、感謝しております。その後、八月からブリュッセル日本語プロテスタント教会への派遣にあたり、岡山教会の皆さんはじめ、東中国教区の方々には様々な形で支えて頂き、重ねて感謝しております。

こちらに来ることの一つの目的でもありましたWCC（世界教会協議会）第十一回総会も九月初旬に無事終わり、今は平日ケルンにて語学学校、土日はベルギーに行き礼拝という日々を過ごしております。

WCC総会では、総会前に四日間行われるユース対象プログラムにも参

加。世界中から四百人の若者たちが集い意見交換を行いました。



ブリュッセル日本語プロテスタント教会の方々

始まって驚いたことは参加者の他国のキリスト者に対する関心度の高さです。例えば「日本のキリスト教徒の中で若者が少ない」という話は本当？若者にはどのような伝道が必要だと思う？」このような内容をよく聞かれました。また世界での課題（環境問題やLGBTQ+）なども話し合いました。環境問題についてあまり考えてこなかった私にとって、集ったメンバーが既に環境問題に取り組み、自分たちのこれからを見つめ、どう生きていくのかを考えている姿勢には大いに刺激を受けました。

ブリュッセル日本語プロテスタント教会は、小さな共同体ですが、私にとって日曜日の礼拝が待ち遠しく感じる温かなコミュニケーションです。子どもたち

も多く、十月から子どもたちのための礼拝を月に二回始めました。礼拝の中で子どもたちの礼拝を行い、その後に大人の礼拝を行っています。同じ空間で、大人も子どもも共に礼拝を守っている、その姿に励まされています。

正直、寂しくなる時があります。思った以上にできない自分に絶望する時もなくありません。けれども皆さんから頂くメッセージや祈りに本当に励まされてここまで歩むことができました。本当にありがとうございます。皆さまにとって良きクリスマスとなりますよう、この地からお祈りしております。



2022年9月WCC総会にて

「教区カルト問題 相談窓口を開設しました」

東中国教区宣教部社会委員会

平川英勝

旧統一協会問題は安部元首相の死を期に急展開の様相をみせている。「日本は朝鮮半島を植民地にした罪ゆえに朝鮮民族の下位にあり、日本は朝鮮民族に償いをしなければならぬ」と主張するのが文鮮明です。彼の思考の奥には民族主義、華夷秩序があるのでしよう。このことは自民党の綱領とは相いれないものです。自民党議員は選

異教の習慣への警告

9あなたが、あなたの神、主の与えられる土地に入ったならば、その国々のいとうべき習慣を見習ってはならない。10あなたの間に、自分の息子、娘に火の中を通らせる者、占い師、卜者、易者、呪術師、11呪文を唱える者、口寄せ、霊媒、死者に伺いを立てる者などがいてはならない。12これらのことを行う者をすべて、主はいとわれる。これらのいとうべき行いのゆえに、あなたの神、主は彼らをあなたの前から追い払われるであろう。13あなたは、あなたの神、主と共にあって全き者でなければならぬ。14あなたが追い払おうとしているこれらの国々の民は、卜者や占い師に尋ねるが、あなたの神、主はあなたがそうすることをお許しにならない。

挙の票を欲しさに旧統一協会の実体を知りながら利用し、利用された。国家の命運を握る国会議員の節操のなさや墮落に、国民の財産を収奪し、家庭崩壊に追いやる宗教団体と持ちつ持たれつに関係にあったことが明るみに出ました。平和な世が長く続き正義が何たるかを理解できない為政者をいただく国家、民族は滅亡の淵に足を踏み入れています。

正体を隠して獲物を狙い、キリスト教を名乗りながら旧統一協会が実際に行っていることは旧約聖書申命記十八章「異教の習慣への警告」に記されていることをそのまま行っています。我々伝統的キリスト者からすると、このような馬鹿げた教えに、いとも簡単に騙されるのか不思議でなりません。しかし、過去を振り返ると、いろいろな事例があり、人類はカルトの要素を本来的に持っていると思われまゝ。ある人物、団体、宗教等を熱狂的に礼賛、崇拜したりする。このような人の弱さを利用して労働の搾取、虐待をする。

国民を動員して他国に戦争を仕掛ける人物もいる。人類の歴史を通して絶えず現れ、現在も数多くのカルトが存在する。

わたしたちはそのようなカルト教団から被害者の救出の手助けをしなければなりません。東中国教区では二十四時間対応の相談窓口を新設しました。教団本部の相談窓口と全国に散らばる相談員、東中国教区では同盟キリスト教団を中心とする「出エジプト会」とも連携して対応します。

旧統一協会の宗教学人格の取り消しと二世信者の救済を切に祈りつつ。

東中国教区 カルト問題相談窓口

電話番号 〇八〇―三三九五―一三二四

一人で悩まないでまずお電話ください。電話に出られない時もあるかもしれませんが、追って必ずお電話します。

教会紹介

・玉野教会・

牧師 今井靖清

玉野教会は日本基督教団の信仰告白を守り、ホーリネスの群に属する教会です。教会の沿革は太平洋戦争時の弾圧を受け宇野警察署により教会に家宅捜査があり、書類がすべて没収され信徒の日記を手掛かりに教会の沿革になっている。

その沿革によると一九二三年四月一日、創始者丹羽平三郎先生出席のもと初代牧師小浜一雄が赴任され、献堂式が行われここに東洋宣教会ホーリネス玉野教会として宣教活動が始まりました。

一九四一年、プロテスタント系キリスト教会は合同教会日本基督教団に統合され日本基督教団玉野教会と改称。一九六三年、現在の玉野市宇野に新会堂が与えられ、一九九九年に現在の会堂になります。二〇二三年四月で教会創立百周年を迎えます。

玉野教会の特色であるホーリネスの群の信仰は聖書の福音主義の信仰に立ち、

新生、聖化、神癒、再臨の特色教理を強調し、特にウエスレアン・アルミニアンの神学的伝統を受け、体験的ホーリネスを持って行動教会の形成に寄与することを目的としている。主イエス・キリストの福音による救いの恵みに与って救われた者として聖められた信仰生活、つまり聖化された者として信仰生活をしていくこと、主の再臨を待ち望みつつ、福音の前進に励むことを特に強調したものです。

教会の働きは「伝道・教育・奉仕」の三つであると言われる。玉野教会の基本理念も教会の働きである福音を正しく宣べ伝える伝道、福音を正しく理解し、御言葉を通して信徒の交わりを保ち、忠実な信仰生活が出来るように教えること。礼拝、諸集会の遵守です。そして、キリストの身体を建て上げるために、互いが賜物を生かして使える奉仕です。

二〇二三年四月に創立百周年を迎えるにあたり、これから先のことに思いをする時、特に、主イエス・キリストが命じられた使命である救霊の職務に力を尽くしていきたい。教区、地区の各個教会と連携して、混沌としたこの社会にあっ

て救霊の職務に互いに力を合わせていきたいと祈り願っています。思いを一つにし、心ひとつにして互いに救霊の職務に励んでいければ幸いです。お祈りください。



「ごんにちは」のお部屋

「教会強化特別資金運用特設委員会」

八頭教会 赤川祥夫

二〇二二年度教区総会において教会強化特別資金運用規程改定が決議され（議案第一号）、当特設委員会が常置委員会のもとに設置され、申請案件を審査することとなりました。委員には教区内七地区の地区長（または代表）と職務上財務委員長と伝道委員長が加わっています。当委員会が常置委員会に議案として提案した案件を常置委員会が審議して承認されると教区はこの支援事業を速やかに執行することになります。

支援事業は、(1)礼拝堂の整備並びに用地取得 (2)牧師館整備 (3)礼拝支援 (4)教師派遣 (5)宣教支援 (6)宣教従事者の赴任費用支援、などとなっています。

教区内諸教会・伝道所は地区長宛て

に申請を出していただき、上記(1)と(5)に関しては「地区の協議を経て」となっています。地区内の教会の協働性と連帯が東中国教区にとって大切であるとの認識からです。八月に発足した当委員会はすでに九月、十一月の二回の委員会を開催いたしました。各委員も委員長も初めての試みで不慣れな面も多のですが諸教会・伝道所の大切な福音宣教の業に仕えてゆく所存です。

どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

クリスマスのおとずれを喜び申し上げます。今号もニュース誌を発行でき皆様の手元に届けることができ感謝です。

教区では新しく教会強化特別資金運用特設委員会という組織が始動しています。

ニュース誌委員会としてもその申請書を手軽に教区HPからダウンロードできるように準備を進めていますので、掲載作業完了の折にはご活用ください。この委員会の働

きが教会の豊かな歩みへの一助となるよう主が新しい働きを祝してくださいませように。また、教団総会の報告や地区集会など対面で行われた会の報告もぜひお読みください。さらには、教区を超えてケルンの地から宣教教師の声を掲載しています。東中国教区のために快く筆をとってくださいましたことを感謝いたします。

引き続き新型コロナウイルスの懸念も一進一退で、やはりというべきか、この冬もまた感染への警戒を高めることとなりました。各教会の宣教のお働きにも苦心が伴うこともあるかと察します。その中であつてなお力強い宣教の働きが支えられ恵みのあふれるクリスマスの時が備えられますように願っています。(W)

★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日 午前九時～午後九時
イイミミト ハナソウ
 電話番号 ○九〇―一三三三〇―八七三〇